Ⅰ　研究の概要

１　研究主題

豊かな学び合いを通して，考える力と学ぶ意欲をもった児童の育成

２　主題設定の理由

（１）今日的課題から

２１世紀は，新しい知識・情報・技術が，活動の基盤として飛躍的に重要性を増す「知識基盤社会」の時代であるといわれている。その知識や情報は，インターネットの普及によりまたたく間に世界中に広がっていく。したがって，知識基盤社会は，変化が激しく常に新しい対応が求められる社会である。次代を担う子どもたちが，このような変化の激しい社会の中でたくましく生き抜いていくには，自分の力で自らの将来を切り拓いていく力を身に付けることが必要になる。そのために，私たちは様々な状況に対応するための知識，状況に応じて適切に判断する力，その判断に基づいて行動する力を子どもたちに身に付けさせなければならない。

学習指導要領では，これらの力を育成するために，各教科等における言語活動を重視し，その充実を図ることを求めている。その言語活動では，自分一人で考えるだけでなく他者とかかわることが重要である。そこで本校の研究では，他者とのかかわりを意識した言語活動の充実を図ることを目指した。

（２）児童の実態から

平成２３年度の標準学力検査，熊本県学力調査，全国学力・学習状況調査の結果から，以下のとおり本校児童の課題が明確になった。一点目は，得られた知識や情報を基にして考察したり考えを述べたりする力が十分でないことである。例えば，熊本県学力調査では，「一人目のインタビューを受けて，次の人へのインタビューすることを考えて話す（５年）」ことなどの設問で県の定着率を下回っていた。二点目は，「新聞記事を基に，自分の言葉で発表内容をまとめる（６年）」ことなどの設問で県の定着率を下回っていることから，自分の考えたことを説明する力が十分に備わっていないということである。そこで，これらの力を伸ばすために「読むこと」の領域に絞り，読んだ内容について自分の考えを述べたり友達の考えを聞いたりする学習に重点的に取り組んでいった。その結果，平成２４年度末の標準学力検査や熊本県学力調査の結果では，一定の成果を得ることができた。

しかし，話す・聞く能力については，熊本県学力調査において県の定着率を依然として下回っており，課題として残った。設問から分析すると，特に，話を聞いて自分の考えを書く力が弱いことが明らかになった。そのことから，他者の発言を受けて自分の考えを述べるなど他者とかかわるような話し合いを設定し，その深まりを目指すことにより，読む能力だけでなく，話す・聞く能力，ひいては学ぶ意欲や考える力を伸ばしていこうと考えた。

（３）研究の継続から

平成２３年度の校内研究の主題は「学ぶ楽しさを実感できる授業の充実を求めて～『表現力』と『いかす力』の向上をめざして～」であった。その研究を通して課題となったのが，目指す授業像の具体化と共有化であった。そこで，そのときに取り組んだ国語科の「読みの力」を育成する授業を取り上げ，目指す授業の具体化に取り組み，授業における言語活動の充実を図ってきた。そして，児童が主体的に活動する授業づくりを目指していった。そこでは，問題解決的学習を行い，自分だけではなく友達と協力しながら解決していく学習活動を設定した。そのことによって，子どもたちは友達と積極的にかかわり合いをもちながら，学習に取り組もうとする姿を見せるようになった。

しかし，課題に対して自分の考えが書けなかったり，考えを発表し合うだけにとどまったりするなど，本時で身に付けさせたい力がついたかどうかはっきりしない授業が見られ，さらに次のよう

な課題が明らかになった。

①児童の考えを広げたり深めたりする学習課題の設定

②児童の思考の深まりや表現力の育成をねらった言語活動の場面における教師の働きかけ方

③目標，指導及び評価の一体化

④児童が意欲的に学習に取り組み，指導事項を確実に身に付けられるような単元を貫く言語活動の設定

⑤本時における学習課題と単元を貫く言語活動との関連や意識化

このようなことから，昨年度より，国語科を中心に言語活動をさらに工夫し，言語活動の充実を一層目指した実践に取り組むことにした。

３　研究主題について

（１）「豊かな学び合い」とは

「豊かな学び合い」とは，自分の考えを発表したり友達の考えを聞いたりすることを通して，自分の考えと友達の考えを比較し，自分になかった考えを取り入れたり新しい考えに気づいたりして，自分の考えを広げたり深めたりする過程ととらえている。つまり，友達の考えとの類似点や相違点に気づき，共感や実感を伴って理解しようとする姿や，友達と学び合うことに喜びを感じ，自分の成長や変化に気づこうとする姿である。これらを受けて本校では，次の三点を「『学び合い』のある授業の姿」としてとらえ，共通理解している。

①「あっ，そうか」「なるほど」という，つぶやきがある授業

②「○○さんと似ていて，…」など，友達とつなげる発言のある授業

③「○○さんの発表を聞いて，新しく知ることができた。」「○○さんの発表を聞いて，前は～だったけど，こんな考えに変わった。」など，以前の自分と比較した発言がある授業

（２）「考える力」とは

「考える力」とは，課題に対して自分の考えをもつだけでなく，これまでの学習で得た知識や経験，習得した技能を使って，問題を解決するために思考し，判断し，表現する力であるととらえている。そこで本校では，学び合いの場面において，友達の意見と比較し関連付ける力(思考力)，多くの意見からよりよい意見を選択し判断する力(判断力)，そして，それらをふまえて自分の意見を表現する力(表現力)の育成に取り組んでいる。

（３）「学ぶ意欲」とは

「学ぶ意欲」とは，一般的には「学びたい」「勉強したい」といった，自分から進んで学習しようとする気持ちのことをいう。本校では，学ぶ意欲の第一歩である「えっ，どうして」「どちらかな」という児童の素朴な疑問に注目し，その疑問を「学びたい」という意欲につなげていく。そして，学び合いを通して考えを広げたり深めたりすることにより，「学んでよかった」という実感をもたせたい。この「もっと学びたい」等の自分から進んで学習しようとするところまでの一連の意識の流れを学ぶ意欲としてとらえている。

４　研究の仮説

仮説１：単元の目標を達成するための様々な言語活動の設定を工夫し，一人一人の考えをかかわらせる指導を工夫すれば，意欲的に学習に取り組み，自分の考えを広げたり深めたりして，考える力が育つであろう。

仮説２：目標，指導及び評価の一体化を図り，個に応じた支援と評価を充実させれば，一人一人の考える力は向上し，「学んでよかった」「もっと学びたい」という実感をもった学習意欲が育つであろう。

５　研究の内容

（１）　研究の視点及び視点へのアプローチ

視点①　様々な言語活動の設定の工夫と一人一人の考えをかかわらせる指導の工夫

学び合いのある授業を行うために，学習活動と指導の工夫に次の点から取り組むこととした。

○単元を貫く言語活動の工夫

○「なぜだろう」「もっとやりたい」など学習に主体的にかかわろうとする学習課題の設定

○考えを引き出し，意図的にかかわらせる場の設定（ペアトーク，グループトーク）

○「ゆさぶりの発問」の工夫

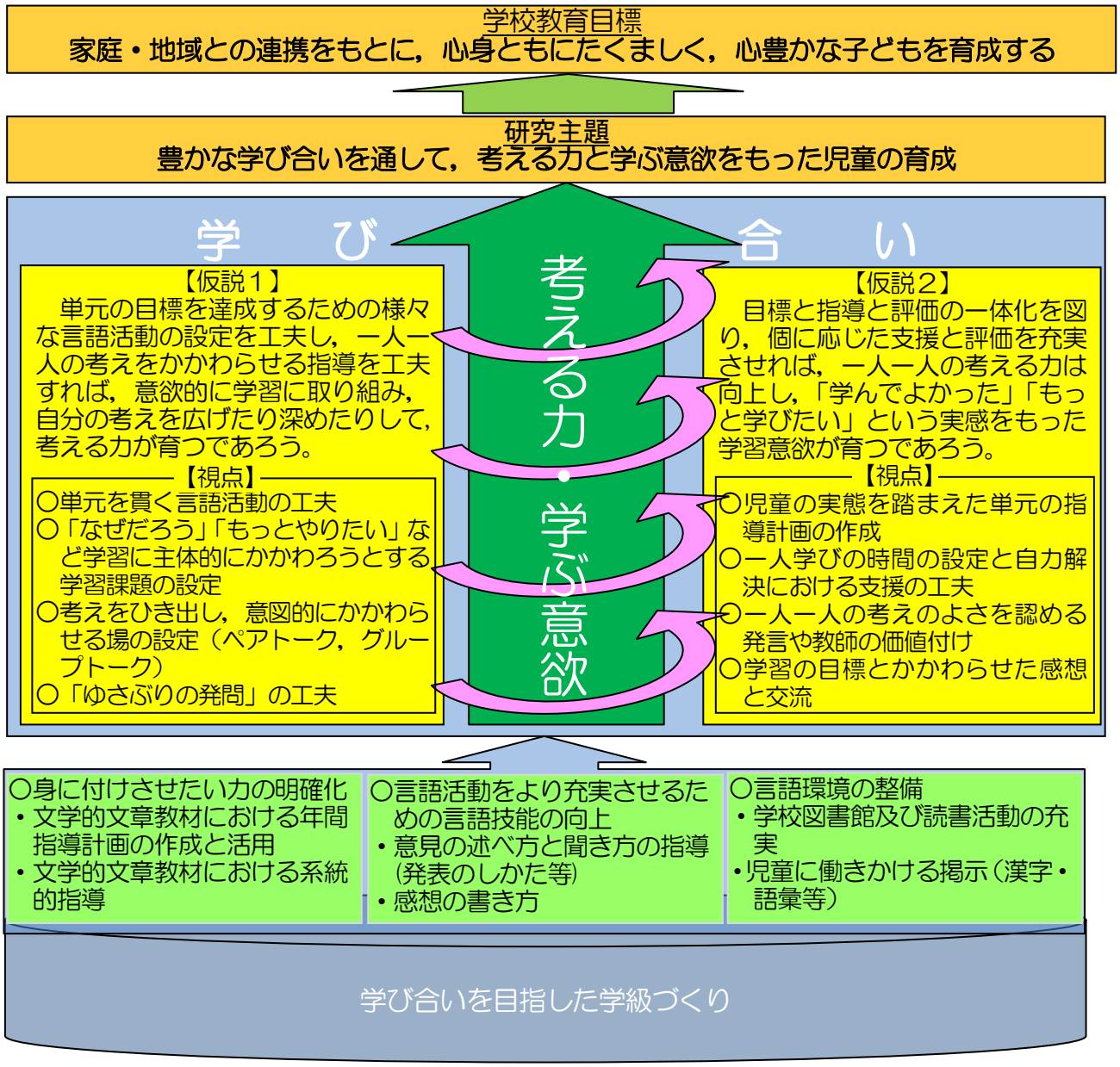
視点②　目標，指導及び評価の一体化と個に応じた支援と評価の充実

児童に考える力と学ぶ意欲をもたせるための一人一人への支援を，次の点から取り組むこととした。

○児童の実態を踏まえた単元の指導計画の作成

○一人学びの時間の設定と自力解決における支援の工夫

○一人一人の考えのよさを認める発言や教師の価値付け

○学習の目標とかかわらせた感想と交流

６　研究構想図